

## 指導計画と記録等のデータベース化とその共有化に対する期待と不安 — 特別支援学校を対象とした自由記述による予備的調査から —

菅原 弘\* \*\*, 橋本 陽介\*\*\*, 松浦 淳\*\*\*\*, 熊井 正之\*\*\*\*\*

\* 東北大学大学院教育情報学教育部

\*\* 仙台市立川前小学校

\*\*\* 函館大谷短期大学こども学科

\*\*\*\* 青森中央短期大学幼児保育学科

\*\*\*\*\* 東北大学大学院教育情報学研究部

**要旨：**指導計画と記録等のデータベース化とその共有化に関するニーズ調査の調査内容を探る予備調査として、全国の特別支援学校の特別支援教育コーディネーターを対象に、郵送法による自由記述調査を行った。内容は指導計画と記録等のデータベース化とその共有化に対する期待と不安についてである。その結果、ニーズ調査の調査内容として、「セキュリティ対策の現状」「校内サーバでの情報の管理・共有化の状況」「職員の操作スキル」「効率化が期待される作業」「有効活用例」の5点が見出された。

**キーワード：**特別支援学校, 指導計画, 記録, データベース, 自由記述調査

### 1. 問題と目的

特別支援教育は、保護者、職員、関係機関と連携し、協働的で一貫した支援体制の構築を目指している(文部科学省, 2012a)。データベース化を含んだ協働的で一貫した支援体制を目指した先導的なシステムとして、個別的教育支援計画に基づく機関間情報交換システム(西谷・服部, 2006)やWebを介した保護者や関係機関との連携システムとして開発した個別の指導計画策定ツール(成田, 2010)が報告されている。また、Webカメラにより自動記録された問題行動の記録を教師間で共有化できる校内システムも開発されている(永森・長澤・植野, 2009)。

しかし、特別支援教育におけるこれらの先導的なシステムの導入には、ネットワーク構築に関する専門的な知識と技能を必要とする。そのため、システムの導入にあたっては、ネットワーク構築とその運用を受け持つ専門技術者と校内職員の活用スキルが求められることが予想される。

一方、現在の校内ネットワーク環境下においても、職員間の共同作業や共通理解を効率化する目的で校務支援システムや校内サーバを介した校内共有が行われている(文部科学省, 2010)。指導計画と記録

等をデータベース化し校内サーバで管理することは、現在のネットワーク環境下で導入可能な、協働的で一貫した支援体制の構築に役立つと考えられる。しかし、指導計画と記録等のデータベース化とその共有化を実現するシステム(以下、データベースシステム)に関する学校現場のニーズは確かめられていない。

そこで、データベースシステムに対するニーズ調査の調査内容を探るため、データベースシステムに対する期待と不安の概要を把握することを目的に特別支援学校の特別支援教育コーディネーター(以下、Co)を対象とした予備調査を実施した。調査目的を達成するため、以下の手続きで調査結果をまとめた。データベースソフトの使用経験の有無がデータベースシステム導入前後の期待と不安を知る手がかりとなると考え、2段階に分けた。第一に、データベースソフトの使用経験のない職員が抱えているデータベース化への期待と不安を把握した。第二に、データベースソフトの使用経験を有する職員が感じているデータベース化のメリットとデメリットを把握した。これらの結果を踏まえ、データベースシステム導入の可能性と本調査の位置づけを確認した上で、データベースシステムに対する学校のニーズを把握

する際の調査内容をまとめた。

## 2. 方法

### 2.1 対象

調査対象は、東日本大震災により被災した可能性のある太平洋沿岸地域12校を除く全国の特別支援学校 877 校とした。その回答者として、各校の現状を把握している代表として Co を選定し依頼した。

### 2.2 調査の時期と方法

2011年7月25日～8月25日に郵送法による質問紙調査を行った。

調査内容は、データベースソフトの使用経験の有無を多肢選択法で問い、使用経験のない Co には、データベースシステムに対して抱くイメージについて自由記述で回答を求めた。使用経験のある Co には、データベースシステムのメリットとデメリットについて、それぞれ自由記述で回答を求めた。

### 2.3 回収率と分析対象の概要

データベースソフトの使用経験の有無について 441 校から回答が得られ、回収率は 50.3 % となった。内訳は、データベースソフトの使用経験のない Co が 358 名、使用経験のある Co が 83 名だった。

データベースソフトの使用経験のない 358 名の Co のうち 315 名から 315 件 (20,517 文字) のデータベースシステムに対して抱くイメージについての自由記述による回答 (以下、経験無群) が得られた。また、データベースソフトの使用経験のある 83 名の Co からは、データベースシステムに対して感じているメリットとして 82 件 (20,517 文字)、デメリットとして 79 件 (5,380 文字) の回答 (以下、経験有群) が得られた。

### 2.4 結果の処理

経験無群にはデータベースシステムに関する漠然とした様々なイメージが含まれ、経験有群にはデータベースシステム導入時と活用時の具体的な記述が含まれている可能性があることが予想されたため、経験無群と経験有群の 2 群に分けて結果を集約した。

そして、データベースシステムに対して抱くイメージを 1 つの欄に記入することを求めた経験無群については、経験有群に対応させ、肯定的なイメージと否定的なイメージに回答を大別することを想定して、感性分析の機能を備えている IBM SPSS Text Analytics for Surveys Japanese 4 (以下、TAS) を補助的に用

いた分析を行った。具体的には、TAS の自動抽出機能で切り出された語のうち、TAS の感性分析機能を用いて「良い - 良い」と「良い - 期待」(以下、期待)、「悪い - 悪い」と「悪い - 効果が不満」(以下、不安) の条件設定で抽出された語を含む回答部分 (以下、感想) について、目視による再分類を実施し、類似する意味ごとにグループ化してサブカテゴリに分類した。さらに、筆者らおよび教育情報学を専門とする研究者 1 名、特別支援学級教員 1 名、大学院生 2 名で類似したサブカテゴリをまとめカテゴリ化した。

メリットとデメリットに分けて具体的な感想が記入されていた経験有群については、上記のメンバーで、回答を最小の意味単位に断片化し、類似する意味ごとにグループ化してサブカテゴリに分類した。さらに類似したサブカテゴリをまとめカテゴリ化した。

## 3. 結果

### 3.1 データベースシステムに対する期待

経験無群におけるデータベースシステムに対する期待として抽出された複数回使用されている語とその語を含む感想数は、「便利」42件、「使いこなす」19件、「よい」15件、「メリット」12件「整理」11件、「期待」4件、「有効だ」3件、「便利である」3件、「便利だ」3件、「活用しやすくなる」3件、そして「役立つ」「興味がある」「よいと思う」「合理的」「便利かもしれない」「整理して」「便利だと思う」「容易になる」「効率よく」「期待している」「便利なものである」「十分で」「しやすい」がそれぞれ 2 件ずつとなった。

これらのなかには「整理して」の語で切り出された「指導計画や指導記録をどのように整理してためておくのかと思う」という感想のように、期待とはいえない内容のものも含まれていたため、切り出された語を含む感想について、目視による再分類を実施した。その結果を表 1 にまとめた。

表 1 のように、経験無群におけるデータベースシステムに対する期待は、9 のサブカテゴリに集約された。そのうち「雛形があり使えるようになれば便利になる」と「セキュリティ対策と教育委員会や校内での共有化と一元管理ができれば便利になる」は「安全で使いやすければ便利になる」にカテゴリ

表1 経験無群におけるデータベースシステムに対する期待 (感想数)

カテゴリ	サブカテゴリ	代表的な意見例
安全で使いやすければ便利になる (50)	雛形があり (4) 使えるようになれば (31) 便利になる	雛形があれば便利 使いこなせる人たちにとってはとても便利なものだと思います
	セキュリティ対策 (1) と教育委員会 (4) や校内 (10) での共有化と一元管理ができれば便利になる	公的な機関 (市・県レベル) でデータベース化し共有化できればよい セキュリティまた使い方の徹底により大変便利であると思う
情報の管理と共有活用がしやすくなる (39)	情報の管理と共有がしやすくなる (21)	記録の蓄積はできてうまく整理する方法がなかなかないのでうまく整理する方法としてデータベース化できるとよいと考えている
	情報の参照や抽出がしやすくなる (13)	情報の整理や検索はスピーディーになりそう。
	作業の効率化につながる (5)	校務においては作業の重複などの無駄を排除して仕事の効率を上げることができるのでは期待する部分が大い
指導と共通理解に役立つ (15)	計画等の作成や指導に役立つ (8)	情報を共有しその後の支援に役立つ
	引継や機関連携に役立つ (7)	個別の指導計画を教員であれば見られるように設定しており、関係機関との会議の際、役立っている
便利で役立つ (19)	便利になると思う (16)	「便利」
	役立つ面があり興味がある (3)	「合理的」「よい」「興味有り」

化された。また、「情報の管理と共有がしやすくなる」「情報の参照や抽出がしやすくなる」「作業の効率化につながる」は「情報の管理と共有活用がしやすくなる」にカテゴリ化され、「計画等の作成や指導に役立つ」「引継や機関連携に役立つ」は「指導と共通理解に役立つ」にカテゴリ化された。そして、「便利」「合理的」等の単語等による回答は「便利になる」「役立つ面があり興味がある」のサブカテゴリに集約され、さらに「便利で役立つ」にカテゴリ化された。

このように、経験無群におけるデータベースシステムに対する期待として、便利になることへの期待が寄せられたが、その具体的な内容としては、情報管理、情報共有、参照、抽出、事務的作業の効率化が挙げられていた。また、データベースシステムの効果として、指導計画等の作成、引継、機関連携、指導や支援に役立つことが期待されていた。しかし、

その便利さには、「安全で使いやすければ便利になる」のカテゴリに集約されたように、「雛形があり使えるようになれば」と「セキュリティ対策と教育委員会や校内での共有化と一元管理ができれば」といった、システム導入時の前提となるような条件が付されてもいた。

### 3.2 データベースシステムに対する不安

経験無群におけるデータベースシステムに対する不安として、複数回使用されている語とその語を含む感想数は、「難しい」31件、「大変」10件、「よい」15件、「心配」8件、「不安」8件、「漏えい」7件、「心配で」7件、「難しそう」6件、「よくわからない」5件、「よくわかりません」5件、「心配です」4件、「不安がある」4件、「難しそうだ」3件、「手間がかかる」3件、「不安が残る」3件、「不安で」3件、そして「つながらない」「大変そう」「効率よく」「課題がある」「壊れる」「問題がある」「時間がかか

表2 経験無群におけるデータベースシステムに対する不安 (感想数)

カテゴリ	サブカテゴリ	代表的な意見例
情報管理に不安がある (61)	個人情報保護上の不安がある (35)	個人情報にかかわるものなので、その管理がとても難しいと思います
	情報管理、システム運用に不安がある (26)	データ紛失等心配 故障等情報管理心配
活用・操作スキルに不安がある (34)	職員の操作スキルに不安がある (16)	誰もが使えるものかどうか心配
	難しそうで使えるかどうか不安である (12)	PC 苦手 難しそう
	システムの周知徹底に不安がある (6)	職員集団全員に理解して使いこなしてもらうことが難しい
手間が増える不安を感じる (7)	記入に手間がかかる (5)	記入するだけで一苦労し大変な思いをするのではと懸念する
	導入時に手間がかかる (2)	導入時に手間がかかる 事前準備難しそう

表3 経験有群におけるデータベースシステムに感じているメリット（感想数）

カテゴリ	サブカテゴリ	代表的な回答例
情報の管理と活用がしやすくなる (50)	校内での情報共有が可能になる (20)	職員間の情報共有が容易になる
	多種大量のデータの一元的な管理が可能になる (17)	データ管理の一元化 写真や動画も残しておく
	個人情報の保護につながる (7)	個人情報の流出防止
	様々な書式への対応 (1) などの情報管理 (3) がしやすくなる	フォーマット変更への対応のしやすさ 管理整理しやすい
	エコロジーにつながる (2)	紙媒体ではなく省スペース化には役立つ
作業が効率化される (82)	資料の作成と活用が正確 (1) で効率的になる (24)	業務の正確性の向上 多くの情報を簡単に利用することができる
	多種大量の情報からの参照や抽出がしやすくなる (22)	必要に応じて見たい項目を一括して見ることができる
	加除修正が行いやすくなる (20)	変化に伴い記入加筆できる
	情報の検索がしやすくなる (10)	児童生徒に関連する情報を検索しやすい
振り返りと共通理解に役立つ (25)	情報の共通理解が効率的にできる (5)	すぐに見て共通理解できる
	支援者間の共通理解 (14) や機関連携 (1) に役立つ	引継がスムーズ 他機関との連携で情報交流しやすくなる
	変容過程（評価）の把握ができる (5)	「あああときはこうだったんだ」との振り返りができ今後の指導に役立つ
	研究 (1) および指導や支援に役立つことができる (4)	事例研究が進む どの職員も閲覧し指導の参考にできる

りそうだ」「大変で」「大変だ」「心配がある」「懸念する」「心配な面もある」「不安を感じる」それぞれが2件ずつとなった。

これらのなかには、「詳しい方の話を聞いたら入力には手間がかかるが使ってみると便利だということだった」という「手間」という語で切り出された感想のように、伝聞なども含まれていたことから、目視による再分類を実施し、結果を表2にまとめた。

表2のように、経験無群におけるデータベースシステムに対する不安は、7のサブカテゴリに集約された。そのうち、「個人情報保護上の不安がある」「情報管理、システム運用に不安がある」は「情報管理に不安がある」にカテゴリ化された。また、「職員の操作スキルに不安がある」「難しそうで使えるかどうか不安である」「システムの周知徹底に不安がある」は「活用・操作スキルに不安がある」にカテゴリ化され、「記入に手間がかかる」「導入時に手間がかかる」は「手間が増える不安を感じる」にカテゴリ化された。

このように、経験無群におけるデータベースシステムに対する不安として、「情報管理に不安がある」に集約されたサブカテゴリに示したように、個人情報の保護や情報管理上の不安が挙げられた。また、「活用・操作スキルに不安がある」に集約されたサブカテゴリのように、操作の難しさや共有化に際しての職員の共通理解や周知の難しさに対する不安も

挙げられた。効率に関する不安については、記入の時間や導入時の時間に対する不安が指摘された。

なお、表1にも表2にも含めることができなかった「わからない」という感想が9件あった。

### 3.3 データベースシステムに感じているメリット

経験有群におけるデータベースシステムに感じているメリットとして、158件（2,570字）の感想があった。それらを類似する意味ごとにグループ化してサブカテゴリに分類した。さらに類似したサブカテゴリをまとめカテゴリに分類し、結果を表3にまとめた。

表3のように、経験有群におけるデータベースシステムに感じているメリットは13のサブカテゴリに集約された。「校内での情報共有が可能になる」「多種大量のデータの一元的な管理が可能になる」「個人情報の保護につながる」「様々な書式への対応などの情報管理がしやすくなる」「省スペースでエコにつながる」は、「情報の管理と活用がしやすくなる」にカテゴリ化された。

また、「資料の作成と活用が正確で効率的になる」「多種大量の情報からの参照や抽出がしやすくなる」「加除修正が行いやすくなる」「情報の検索がしやすくなる」「情報の共通理解が効率的にできる」は、「作業が効率化される」にカテゴリ化された。そして、「支援者間の共通理解や機関連携に役立つ」「変容過程（評価）の把握ができる」「研究および指導

表4 経験有群におけるデータベースシステムに感じているデメリット (感想数)

カテゴリ	サブカテゴリ	代表的な回答例
システム構築とその運用が難しい (90)	情報漏えい等の個人情報保護面での心配がある (36)	情報流出の危険があるのではないかと 管理者の負担がかなりある(情報担当) 学校に応じてカスタマイズすることが大変 データベースの操作ができない職員が多いため一部の職員の負担がかかる
	システムの構築と運用に関わる管理者の負担が増す(17)	共有して活用していくために職員間の意識や学校全体のシステムが整っていない
	システムの活用方法の校内周知と継続運用が難しい(14)	PCやサーバの不具合が起きるとデータが使えなくなることがある データの消失の可能性
	システムトラブルによるデータ消失等が心配である (9)	ソフトの入っているパソコンを複数の教員で使わなくてはならない 機器をそろえる等のコスト
	PCやソフトを整備することが難しい (9),	個人情報の管理をしっかりとしなければならない(データ利用時のトラブルを含む) 書き換え時のミスなどソフトに慣れていない職員がいる場合にはとても怖い
職員の活用スキルの習得が難しい (23)	データ利用のトラブル(1), データの改ざんや書き換え(4)が起きる可能性がある	個人情報の管理をしっかりとしなければならない(データ利用時のトラブルを含む) 書き換え時のミスなどソフトに慣れていない職員がいる場合にはとても怖い
	職員のスキル習得に不安を感じる (14)	PCに不慣れな人には大変敷居が高い
	作業が煩雑化する不安がある(5)	データベースに入るまでの手続きが煩雑である
活用効果を引き出せない場合がある (9)	システムダウンや不具合への対処に不安がある(4)	PC, ソフトの故障, 電源不備, 使用不可能の状況がある
	児童生徒の理解につながるか不安である(7)	安易に過去のデータを使用して生徒を型にはめてしまう可能性がある 記録だけに終わり, 個人を見ないで済んでしまう場合もある
	入力内容の限界(1)や学校規模の違いによる効果の違い(1)がある	人力できる情報に限りがある 児童生徒数が少ない(34人)ので効果が期待できないのではないかと

や支援に役立てることができる」は、「振り返りと共通理解に役立つ」にカテゴリ化された。

これらのメリットの具体的内容については、以下のとおりである。

第一に「情報の管理と活用がしやすくなる」の具体的内容として、写真や動画を含めた多種大量のデータを安全に管理できることが挙げられていた。第二に「作業が効率化される」の内容として、情報の検索、参照、必要な情報の抽出作業が挙げられ、修正および共有が行いやすくなることも指摘された。第三に「振り返りと共通理解に役立つ」の内容として、指導の振り返りと校内での吟味や共通理解、引継や機関連携にも役立つといった効果を指摘する感想もあった。

### 3.4 データベースシステムに感じているデメリット

経験有群におけるデータベースシステムに感じているデメリットに関しては、115件(9,656字)の感想があった。それを類似する意味ごとにグループ化してサブカテゴリに集約した。さらに類似したサブ

カテゴリをまとめカテゴリ化し、結果を表4にまとめた。

表4のように、経験有群におけるデータベースシステムに感じているデメリットは11のサブカテゴリに集約された。そのうち、「情報漏えい等の個人情報保護面での心配がある」「システム構築と運用に関わる管理者の負担が増す」「システムの校内周知と継続運用が難しい」「データの消失の可能性がある」「PCやソフトを整備することが難しい」「データ利用のトラブル、データの改ざんや書き換えが起きる可能性がある」は「システム構築とその運用が難しい」にカテゴリ化された。また、「スキル習得の難しさに不安を感じる」「作業が煩雑化する不安がある」「システムダウンや不具合への対処に不安がある」は「職員の活用スキルの習得が難しい」にカテゴリ化された。そして、「児童生徒の理解につながるか不安である」「入力内容の限界や学校規模の違いによる効果の違いがある」は「活用効果を引き出せない場合がある」にカテゴリ化された。

これらのデメリットの具体的内容については、以下のとおりである。

第一に「システム構築とその運用が難しい」の内容として、情報漏えい等の危険性とシステムの周知と運用を継続していく際のシステム管理者の負担が挙げられていた。第二に「職員の活用スキルの習得が難しい」の内容として、システムトラブル時の対応、職員の活用スキルの習得の難しさ、過失等によるデータの書き換えが心配されていた。第三に「活用効果を引き出せない場合がある」の内容として、記録を重視するあまり、先入観を抱いてしまうというような感想もあった。

#### 4. 考察

本調査の結果から、経験無群と経験有群共通に、情報管理と情報共有および情報の参照、検索、抽出作業の効率化が期待されていた。また、データベースシステムは、指導計画の作成、指導と支援および引継や機関連携に役立つと考えられていた。経験有群の中には、データベースシステムによって、写真や動画を含めた多種大量のデータを安全に管理できる旨の感想もあった。これらのことは、坂井・鳥羽(2010)が指摘する校務情報システムの利点のうち「職員個々が蓄積した情報を校内で共有化でき、全校が協力して作業することができる」「作業が効率化される」「写真などを含めた学習者のデータベースが作られていく」という部分と重なる。一方、坂井・鳥羽(2010)の使用する校務情報システムは、文部科学省(2010)における校務支援システムと同じ目的と機能を持つものであり、特別支援教育での使用を想定したものではないため、個別の指導計画や個別の教育支援計画および指導記録や相談記録などは管理対象となっていない。そのため、共有化する情報の種類と活用方法が本調査での想定と異なる部分もある。本調査では、指導記録を含めた幅広い情報を共有化し、指導の振り返りと共通理解に役立てることが期待されていた。

そして、セキュリティ対策に関する不安や職員の操作および活用スキルに対する不安が、経験無群、経験有群共通して挙げられた。この点について、経験有群からは、具体的に、情報漏えい等の危険性とシステムの周知と運用におけるシステム管理者の負担も挙げられた。また、システムにトラブルが発生

した時の対応や職員の活用スキルの習得の難しさ、過失等によるデータの書き換えが心配されていた。これらのことは、坂井・鳥羽(2010)の指摘する校務情報システムの問題のうち、「作業が担当職員に集中する」「操作能力の不足や校内の情報伝達の不徹底がある」という部分と重なる。一方で、活用効果を引き出せない場合があることについて、記録の記入、読み取り、活用方法等に関する不安が挙げられたことは、坂井・鳥羽(2010)の指摘には含まれていない点であった。

文部科学省(2010)によれば、校内サーバで情報を管理し共有することから校務の情報化を始め、学校間・教育委員会等の校務用ネットワークへと広がっていくことが想定されている。そして、校務の情報化を進めるモデルとして、教育委員会主導での校務支援システムの整備を進めるだけでなく、校務用ネットワークの整備状況に合わせた学校独自の校務の情報化を教育委員会が調整役となって進めることも検討されている。

校内LANの整備がほぼ完了し、職員1人1台ずつの校務用PCの配備が進められている現在(文部科学省, 2012b)、データベースシステムは校務用ネットワークの整備状況に合わせた学校独自の校務の情報化の一つであり、ほぼ全ての学校で導入可能なシステムとなる可能性がある。今後、校務の情報化のみならず、協働的で一貫した特別支援教育体制の構築にも役立つ、導入しやすいデータベースシステムを提案するためには、さらに詳細で厳密な調査によって、学校のニーズを確かめることが必要となる。本調査はそれに先立って、データベースシステムに対する期待と不安を集約し、今後の本格的なニーズ調査に必要とされる調査内容の把握を試みたものである。

本調査の結果として集約されたカテゴリをもとに、データベースシステムに対する学校のニーズを把握する際の調査内容をまとめると、「セキュリティ対策の現状」「校内サーバでの情報の管理・共有化の状況」「職員の操作スキル」「効率化が期待される作業」「有効な活用例」の5点となる。また、経験有群の感想およびそれを集約したサブカテゴリは、より具体的な質問項目と選択肢を工夫する際の参考となる。

## 5. まとめと今後の課題

データベースシステムに対する学校のニーズを把握する際の調査内容を探るため、予備調査として、特別支援学校の Co がデータベースシステムに対して抱くイメージなどについて、郵送法による自由記述調査を実施した。

その結果、「セキュリティ対策の現状」「校内サーバでの情報の管理・共有化の状況」「職員の操作スキル」「効率化が期待される作業」「有効な活用例」の5点が、データベースシステムに対するニーズを把握する際の調査内容として見出された。

本調査は、データベースソフトの使用経験の有無により分析対象を分けたが、分析対象数に大きな差があった。また、具体的なソフトやデータベースの雛形を提示していないことから、抱くシステム像が回答者の経験によって異なり、異なったシステム像に対しての回答となっている可能性がある。データベースシステムに関する学校のニーズ調査にあたっては、対象とする校種を増やし、目的に応じて対象者の条件をそろえるとともに、データベースの雛形を配布するなどしてデータベースシステムの具体的なシステム像を示す必要がある。その上で、本調査で得られた5つの調査内容を含んだ調査を実施し、データベースシステムの実現可能性について検討することが今後の課題となる。

## 文献

- [1]坂井岳志・鳥羽純 (2010) 教員の立場から見た「校務情報システム」の利点と課題, 日本教育情報学会, 第26回年会, 38-41.
- [2]永森正仁・長澤正樹・植野真臣 (2010) Web カメラを用いた特別支援における突発的な児童問題行動の記録・共有システム, 日本教育工学論文誌, 34(1), 1-12.
- [3]成田滋 (2010) オンライン個別の指導計画策定ツール“e-icp”の評価に関する報告, 信学技報, 33-36.
- [4]西谷淳・服部昌美 (2006) 湖南発達支援 IT ネットワーク (KIDS) の今後の構想, 日本教育情報学会, 第22回年会, 28-29.
- [5]文部科学省 (2010) 教育の情報化に関する手引, 文部科学省.  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/zyouhou/](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/)

1259413.htm

(2013年3月16日閲覧)

- [6]文部科学省 (2012a) 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進 (報告), 文部科学省.

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/gijiroku/\\_icsFiles/afildfile/2012/07/24/1323733\\_8.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/gijiroku/_icsFiles/afildfile/2012/07/24/1323733_8.pdf)

(2013年4月13日閲覧)

- [7]文部科学省 (2012b) 学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果, 文部科学省.

[http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020101.do?\\_toGL08020101\\_&tstatCode=000001045486&requestSender=dsearch](http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020101.do?_toGL08020101_&tstatCode=000001045486&requestSender=dsearch)

(2012年9月1日閲覧)

## **Expectation and Anxiety about Sharing the database of Plans and Records** **－Preliminary Investigation to Needs Assessment as for Special Educational School by Free Description－**

**Hiroshi SUGAWARA\* \*\*, Yosuke HASHIMOTO\*\*\*, Jun MATSUURA\*\*\*\*, Masayuki KUMAI\***

\* Graduate School of Educational Informatics / Education Division, Tohoku University

\*\* Kawamae Elementary School

\*\*\* Hakodate Otani College

\*\*\*\* Department of Child Care, Aomori Chuo Junior College

### **ABSTRACT**

This report is a preliminary investigation into assessment of the needs for sharing the database of plans and records as for special educational schools. The survey was conducted by mail method for special education coordinators of special needs schools across the country. Survey contents was free description about expectation and anxiety about sharing the database of plans and records. As the result, five survey points have been found; “the state of the security measures,” “the status of managing and sharing information on the school server,” “operation skills of the staff,” “the work to be more efficient”, “cases of effective utilization”.

**Key words:** special educational school, plans, records, database, free description